

平成29年5月8日

東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標 題	平田柿部会定期総会の開催 新役員による柿産地づくりスタート！ ～「平田の柿産地 活性化プラン」実践で4億円の産地づくりを～
-----	--

(ダイジェスト)

4月28日、平田柿部定期総会が開催されました。今年度は役員改選の年であり、3期6年部会長を務められた奥秀男氏が退任され、平成27年9月に「柿産地活性化プラン」を部会員に提案された川瀬利治氏が部会長に就任されました。活性化プランでは、今後、5年、10年後を見据えた具体策を実践し、リース団地等による担い手育成、あんぼ柿100万個増産等で販売額目標4億円突破を目指しており、更なる産地発展が期待されます。

4月28日、JAしまね出雲平田柿部会（川瀬部会長、部会員98名）平成29年度定期総会が参加者100名で開催されました。総会では優秀生産者4名が表彰されるとともに、3回目の最優秀賞（伊豆柿の部）に輝いた水浦誠司氏が「柿名人」に認定され、柿部会で4人目の柿名人が誕生しました。

昨年は、気象災害（風害、長雨・高温等によるへたスキ果・樹上軟化・炭そ病の発生、台風被害等）が多く栽培環境は厳しい年となりましたが、打撲果のあんぼ柿仕向け等への迅速な部会対応、JAの販売努力により、販売金額は2億8千万円と過去最高となったとの報告がありました。



平成29年度定期総会



新部会長・副部会長あいさつ
部会長:川瀬利治氏(右端)

その後、川瀬部会長が、平成28年度にはハード面（リース団地、SCS冷蔵庫等）が整備されたことから、平成29年度はソフト面（生産技術・販売力の向上）を部会一丸となって取り組むとの活動方針を決意表明されました。

総会終了後、鎌田出雲事務所長からGAPについての講演があり、安全と安心の違い、リスク管理の必要性、出荷調整時の農薬汚染の事例、生産者（従業員等）の安全確保の必要性等を説明されました。今後、産地全体で、「生産者・消費者・関係機関の三者WIN・WINの産地づくり」について、検討することとしています。

当農業普及部としても平田の柿産地の更なる発展を支援するため、リース団地の早期成園化、本年3月に本格的に導入されたジョイント栽培（2戸、約65a）の技術確立、県内柿産地の連携を図り、島根あんぼ統一ブランドを目指した普及活動を行っていく予定です。